TC ゆった～り山行実施記録表 v.1　2013年5月31日　報告者：　三村義昭(1/2)

山行名	那須八幡ﾂﾂｼﾞ・会津西山温泉・博士山(1482m)登山 ［栃木県・福島県］
実施日	平成２５年０５月２５日(土)～２６日(日)　１泊２日　マイクロバス利用
天候／参加人員	天候：5/25：曇後晴、5/26:晴、　レベル：★★　　参加者：申込１４名/実施 14 名（男 3 名／女 11 名；うちゲスト参加１名）
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL/計画/:、SL：、会計：、救護：、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ：、写真：　スタッフ名削除
参加メンバ	A 班：(班長)、 B 班：(班長)、　　氏名削除
費用 **一人当たり；** **21，800円** **TTC カンパ金：** **2，452円**	**約２１，８００円（交通費¥10,197+宿泊費￥10,650+その他￥778+カンパ金￥175）** 費用内訳　交通費　ﾏｲｸﾛﾊﾞｽﾚﾝﾀﾙ料金(@28,455x2 日)￥56,910、燃料代(@130x(350+540+待機 50km)/5)¥22,100、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ謝礼(@18,000x2 日+距離加算￥1000+宿泊加算￥2000)￥39,000、高速料金[往路：東名￥1450+首都高￥900+東北道那須まで ETC 通勤割￥3,200＝計￥5,500、帰路：磐越道会津坂下から浦和料金所まで ETC 通勤割￥6,200+首都高速¥900+東名厚木まで￥1,450＝￥8,550]¥14,100、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ宿泊費¥10,650/交通費計：￥142,760/14＝¥10,197、宿泊費：@10,650、その他雑費：昼食用ｵﾆｷﾞﾘ(@500x14)￥7,000、乾杯用ﾋﾞｰﾙ(@578x5 本)￥2,888、通信費￥1,000/雑費計¥10,888/14＝￥778/ 一人当たり費用合計（@10,197+宿泊費@10,650+その他@778）@21,625 **集金（@21,800ｘ14）￥305,200−費用合計（@21,625ｘ14）￥302,750＝残金(TTC ｶﾝﾊﾟ金)￥2,452**

	5/25(那須八幡ﾂﾂｼﾞ・平成の森ﾄﾚｯｷﾝｸﾞ)			5/26(博士山登山)		
	歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	―	―	―	4:30	―	―
計画	2:00	―	―	5:20	1:55	7:15
実行	1:48	0:47	2:35	5:17	1:33	6:50

実行コースタイム記録

◆5/25(土)　天候：曇後晴（那須八幡ﾂﾂｼﾞ散策・平成の森散策、歩数：14,000 歩）

（荻野新宿・及川・林経由）　東名道　首都高　東北道

鳶尾＝＝本厚木ｺｰｶﾄﾞ-前＝＝厚木 IC＝用賀 PA＝＝浦和料金所＝＝羽生 PA＝＝黒磯 PA　＝＝那須 IC＝＝ﾂﾂｼﾞ吊橋入口 P

6:00　6:18/6:20　6:27　6:59/8:08　7:58　8:24/8:38　9:45/9:58　10:01　10:35

0:45　（昼食）　0:30　ﾏｲｸﾛﾊﾞｽ移動　0:33　那須甲子道路/R289/県 346/R400/県 32

--八幡ﾂﾂｼﾞ中央展望台－－八幡崎大駐車場＝＝平成の森公園入口---駒止の滝P＝＝道の駅下郷＝＝西山温泉滝の湯(泊)

11:20/11:50　12:20/12:27　12:37　13:10/13:22　14:10/14:28　15:54 到着

◆5/26(日)　天候：終日晴（博士山登山：累積標高差(登り/下り);約 800m/歩行距離;約 7km、歩数：約 18,000 歩）

朝食 6:00～　林道　1:13　0:15　0:27　0:41　0;22　（昼食）　0:18　0:28

滝の湯旅館＝＝大成沢＝＝道海泣きｺｰｽ登山口 P---(1055m)--ｼｬｸﾅｹﾞ洞門---尾根分岐点---社峰---博士山頂上－－社峰--

6:40　6:59　7:10/7:25　8:38/8:43　8:58　9:25/9:37　10:18/10:25　10:47/11:28　11:46

0:16　0:29（大谷滝尾根）　0:08　0:40　（温泉入浴）　pick-up（買い物）　県 32/R252/　磐越道

分岐---近洞寺跡---尾根分岐点--(940m)---近洞寺ｺｰｽ下山口＝＝滝の湯旅館＝＝柳津道の駅＝会津坂下 IC＝＝磐梯山 PA

12:14/12:22　12:38　13:07　13:15/13:20　14:00/14:07　14:30/15:18　15:40/15:58　16:10　16:30/16:45

東北道(ETC 通勤割)　（夕食）　首都高速　東名道

＝郡山 JCT＝(西那須野塩原)＝上河内 SA＝＝浦和料金所＝＝川口 PA＝＝東京料金所＝＝厚木 IC＝＝本厚木駅＝＝鳶尾

17:07　17:59　18:18/18:30　19:40　19:46/20:16　21:04　21:26　21:35　21:50 頃

コースの概要、特記事項、反省事項等

奥会津に一等三角点を持ち、ブナの原生林が特に美しい「博士山」という不思議な名前の山があり、前々から一度登ってみたいと思っていた。いろいろ調べて見ると、現在会津美里町にある会津総鎮守社「伊佐須美神社」は、その縁起を記した古文書によれば、紀元前 88 年（崇神天皇 10 年）に、一昨年秋に長年の夢をかなえてやっと頂上を踏んだ御神楽岳頂上に創建されたという（祭祀はｲｻﾞﾅｷﾞ、ｲｻﾞﾅﾐの２神）。その後、この博士山に社殿が移され、さらに明神ヶ岳を経たのち、現在の地に遷座されたという古い歴史のある山であった。

この山を登るための登山基地として古事記時代に開湯され、現在も「神の隠れ湯」の温泉信仰を残す秘湯の里「西山温泉」に定め、５軒ある旅館の内、地元ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄや Web 情報で評判の良い「滝の湯旅館」と交渉し、10 名以上であれば貸切ということで 3/上に宿泊先を先行予約した。また、前日は那須八幡ﾂﾂｼﾞと中の大倉尾根に咲く 4 万本のｺﾞﾖｳﾂﾂｼﾞをｺﾞﾝﾄﾞﾗ使って見物に行くﾌﾟﾗﾝを組合せ、1 泊 2 日のゆった～り山行として提案し、3 月例会仮募集/4 月例会本募集にて、参加者を募ったところ、14 名の応募者があったので、ﾏｲｸﾛﾊﾞｽで行くこ

とにして、各方面に手配・直前地元情報収集等を行って、万全の準備を整えた。関東地方は、2-3 月のﾎﾟｶﾎﾟｶ陽気で桜の花が、平年より 10 日も早く咲いたのに、那須をはじめとする東北の春の訪れは遅く、例年なら満開になっているはずの八幡ﾂﾂｼﾞは 5/20 にやっと開花するなど、ﾂﾂｼﾞの開花遅れに大いにﾔｷﾓｷさせられた。

◆5/25(土)：東名・首都高・東北道とも快調に走り、3 回のﾄｲﾚﾀｲﾑをとりながら、那須 IC を抜け、那須湯本手前で少し渋滞に遭ったが、予定時刻に八幡南ﾂﾂｼﾞの入口「ﾂﾂｼﾞ吊橋駐車場」に到着した。早速吊橋を渡り、八幡南のﾂﾂｼﾞの群生地に向かった。生憎ｶﾞｽっぽい天候で、那須連山の眺望はなかったが、谷の斜面にｺﾞﾖｳﾂﾂｼﾞが数本咲いているのが見えた。木道を進むと真っ赤な花を一斉に開き始めたﾔﾏﾂﾂｼﾞの群落を見て、歓声が上がった。まだ蕾も多く、全体では 6,7 分咲きというところだが、咲き始めたばかりで、どれも色鮮やか美しい。

八幡南地区を抜け、雑木林の斜面を 10 分ほどで登り切り、ﾂﾂｼﾞ群落が広がる八幡ﾂﾂｼﾞの遊歩道を辿り、中央展望台に向かった。上の道路に車を駐車して降りてくる大勢の観光客で、展望ﾃﾞｯｷは人であふれていた。展望ﾃﾞｯｷのすぐ下の休憩卓&ﾍﾞﾝﾁに陣取り、にぎやかなﾗﾝﾁﾊﾟｰﾃｨとなった。食後、一端北の展望台を経由して、ﾂﾂｼﾞの群落の間を抜けて、上の道路からﾏｲｸﾛﾊﾞｽの待つ八幡崎無料駐車場まで散策した。見頃を迎えた真っ赤なﾔﾏﾂﾂｼﾞに交じり、ﾍﾞﾆｻﾗｻﾄﾞｳﾀﾞﾝや白色のﾄﾞｳﾀﾞﾝﾂﾂｼﾞも咲き、ﾚﾝｹﾞﾂﾂｼﾞも一部咲き始めていた。ﾂﾂｼﾞの名所として名高い場所であるが、ほとんどのﾒﾝﾊﾞが初めてで、見事なﾂﾂｼﾞに感激して頂けたのは何よりだった。

この後、予定では那須ﾏｳﾝﾄﾃﾞｰﾝｽﾞｽｷｰ場上部の中の大倉尾根に咲く 4 万本のｺﾞﾖｳﾂﾂｼﾞを愛でに行くはずであったが、前日の問い合わせでは、今年はまだこの群生地のｺﾞﾖｳﾂﾂｼﾞは開花していないとのこと。往復 1500 円のｺﾞﾝﾄﾞﾗ代がもったいないので、行き先を平成の森に変え、駒止の滝まで新緑の森を散策することに。ｺﾞｰﾙの駒止の滝展望台から、那須一の名瀑駒止の滝を遠くに眺め、足下の斜面にｺﾞﾖｳﾂﾂｼﾞが見事に咲いているのを確かめた。この頃になって、ようやく雲が晴れ、茶臼岳や朝日岳の全容がはっきりと見渡せるようになった。

再びﾏｲｸﾛﾊﾞｽに乗車し、那須甲子道路から甲子ﾄﾝﾈﾙを抜けて、会津地方へ。下郷の道の駅で一休みした後、山深い県道を抜け、大成沢で明日辿る「林道博士山線」の入口を確認してから、西山温泉「滝の湯旅館」に 4:00pm 前に到着。早速源泉かけ流しの温泉を楽しむ。露天風呂と男湯の源泉が［荒湯］、女湯の源泉が川向の源泉から引き湯している「滝の湯」。どちらも、ｲｵﾝ濃度 2000ppm 超のﾅﾄﾘｳﾑ塩化物泉で、荒湯の方は微かに硫黄の匂い。部屋は新館の 6 室に 2～3 人に分れ、夕食は、山菜中心で、50 畳の大広間で頂く。宿泊客は TTC のみ。

◆5/26(日)：特別にお願いして、通常より 1 時間早い 6:00AM からの朝食を摂り、宿で作ってもらったｵﾆｷﾞﾘを持って、博士山登山に出発。とはいっても、3 日前に 38.6℃の熱を出した MS さんと数日前に家の中で脚の靭帯を痛めてしまったｹﾞｽﾄ参加の MM さんのお二人は、大事をとって下界で待機することになったため、登山したのは 12 名である。大成沢の集落から左折して、舗装はしてあるが細い林道博士山線に車を乗り入れて走ること約 10 分で、立派な車道に出て、それを少し行ったところに、広大な博士山登山者用の駐車場。狭い谷間の林道のﾄﾞﾝ詰まりを想像していたが、実に広大な山裾にﾋﾞｯｸﾘした。道海泣き尾根登山口前で、ストレッチ体操を済ませ、7:25AM 登山開始。ﾘﾀｲｱ組の 2 人は、この後、ﾏｲｸﾛﾊﾞｽで柳津の街まで送ってもらって会津きっての名刹である円蔵寺参拝等の柳津観光。登山組が下山して帰路につく際に、柳井で pick-up することにした。

登山道はﾌﾞﾅの新緑が目に染みる樹林帯に入り、ほどなく本格的な急登となり、やがて、ﾄﾗﾛｰﾌﾟやら、ｱﾙﾐのﾊｼｺﾞも現れるが、道海とうい坊さんが泣き泣き登った急峻な尾根という名前の由来ほどの事はなく、ﾌﾞﾅの原生林の森林浴を楽しみながらの楽しい登り。登山道には、ｵｵｶﾒﾉｷやﾀﾑｼﾊﾞの白花に、紫の色艶やかなﾄｳｺﾞｸﾐﾂﾊﾞﾂﾂｼﾞ、そして足元には、ﾋﾟﾝｸの可憐なｼｮｳｼﾞｮｳﾊﾞｶﾏが出迎えてくれた。やがて、ｼｬｸﾅｹﾞ洞門まで登ると、頭上にｱｽﾞﾏｼｬｸﾅｹﾞのﾋﾝｸの花が我々を出迎えてくれた。ｼｬｸﾅｹﾞの花は、下山ﾙｰﾄの近洞寺跡の尾根筋に多く見られた。

ｼｬｸﾅｹﾞ洞門から先の社峰、下山ﾙｰﾄの近洞寺跡付近までの尾根筋に、ｱｽﾅﾛの大木が沢山目についた。大きいものでは、幹回りが 10m 位あり、樹齢は優に 500 年は越えているのではないかと思われる。檜や杉の大木はあちこちの山でよく見かけるが、こんなｱｽﾅﾛの大木を見たのは初めてかもしれない。ｱｽﾅﾛは井上靖の小説で、ﾋﾉｷになろうと努力する少しかわいそうな木として描かれているが、殺菌作用や防湿作用を持つﾋﾉｷﾁｵｰﾙが檜より数倍多量で、最高級のまな板や桶として珍重されている(別名青森ﾋﾊﾞ)。見晴らしが利くようになった主稜線を博士山頂上に向かって進むと、左側の北斜面に残雪が残り、ﾀﾑｼﾊﾞの花、そして足下にまさに純白の花を開き始めばかりのﾂﾊﾞﾒｵﾓﾄや同じく咲き始めたばかりのｺｲﾜｶｶﾞﾐが群生し、ｼｮｳｼﾞｮｳﾊﾞｶﾏも負けじと存在を主張し、所々にｱｽﾞﾏｲﾁｹﾞがひっそりと咲き、ﾌﾞﾅの新緑と初夏の花が美しさを競い合っていた。かつて、伊佐須美神社が鎮座していた社峰まで登ると、頂上左側の北斜面と右に張り出した尾根にたっぷり残雪を残した博士山の本峰がかっこよく迫ってくる。そんな頂上へも一登りの距離。頂上に登り着くと誰もいない。ここまで登ってくるまでに 3 ﾊﾟｰﾃｨ/6 人ほどとすれ違ったが、誰もいないとは予想外。結局旅館特製の大きなｵﾆｷﾞﾘを食べながら頂上に留まっていた約 40 分間は完全に TTC の貸切だった。頂上の北側と東側の立木が切り払われ、本来なら見えるはずの飯豊山、磐梯山、安達太良山等の山並みは、天候は良いものの気温が高くて遠方が霞み、いずれの山も確認できなかったのは残念だった。下山ｺｰｽの近洞寺尾根はもう少しなだらかなと勝手に想像していたが、登りｺｰｽに負けず劣らず急坂の連続。ｼﾆｱﾒﾝﾊﾞ中心の 12 名全員、弱音を吐く人もなく元気に下山！

滝の湯旅館に立ち寄って、温泉で汗を流し、柳津で 2 人を pick-up し、会津坂下から高速道で帰路についた。